

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年7月12日
【四半期会計期間】	第148期第1四半期（自平成25年3月1日至平成25年5月31日）
【会社名】	松竹株式会社
【英訳名】	Shochiku Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	取締役社長 迫本 淳一
【本店の所在の場所】	東京都中央区築地四丁目1番1号
【電話番号】	03(5550)1552
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 岩崎 敏久
【最寄りの連絡場所】	東京都中央区築地四丁目1番1号
【電話番号】	03(5550)1552
【事務連絡者氏名】	執行役員経理部長 岩崎 敏久
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号） 株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号） 証券会員制法人福岡証券取引所 （福岡市中央区天神二丁目14番2号） 証券会員制法人札幌証券取引所 （札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第147期 第1四半期連結 累計期間	第148期 第1四半期連結 累計期間	第147期
会計期間	自平成24年3月1日 至平成24年5月31日	自平成25年3月1日 至平成25年5月31日	自平成24年3月1日 至平成25年2月28日
売上高(千円)	19,038,892	22,159,950	78,600,885
経常利益又は経常損失() (千円)	528,435	1,794,612	1,530,731
四半期(当期)純利益又は四半期純損失() (千円)	268,278	1,148,460	1,001,751
四半期包括利益又は包括利益(千円)	899,723	2,463,627	2,392,407
純資産額(千円)	62,962,689	68,280,952	66,240,149
総資産額(千円)	170,912,250	201,784,139	203,026,596
1株当たり四半期(当期)純利益金額 又は1株当たり四半期純損失金額 () (円)	1.95	8.36	7.29
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	36.80	33.82	32.61

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移について記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第147期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額につきましては、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

4. 第148期第1四半期連結累計期間及び第147期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額につきましては、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当企業グループ(当社及び当社の関係会社、以下は同じ。)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、円高の是正、株価の高騰および政府による経済対策等を背景に、景気の回復基調が見られたものの、企業収益・雇用情勢は依然として厳しく、世界経済は欧州の財政問題の継続に加えて、新興国経済停滞等の景気下振れの懸念材料を残したまま推移しました。

このような状況下、当企業グループはより一層の経営の効率化を図り、積極的な営業活動を展開いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間は、売上高22,159百万円(前年同期比16.4%増)、営業利益2,355百万円(前年同期は営業損失77百万円)、経常利益1,794百万円(前年同期は経常損失528百万円)となり、特別損失11百万円を計上し、四半期純利益は1,148百万円(前年同期は四半期純損失268百万円)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

(映像関連事業)

映像関連事業におきましては、配給は、「クロユリ団地」を筆頭に、「舟を編む」「ひまわりと子犬の7日間」等が健闘しました。興行は、邦画、洋画をはじめ、ライブビューイングやイベント上映等、幅広いラインナップが収益に貢献しました。テレビ制作、映像ソフト、テレビ放映権販売等は堅調に推移いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は11,159百万円(前年同期比2.4%減)、セグメント利益は443百万円(同87.3%増)となりました。

(演劇事業)

演劇事業におきましては、再開場の歌舞伎座は、4月から『葦落興行を三部制興行で行い、豪華顔ぶれによる幕開きとなった』『葦落四月大歌舞伎』、『葦落五月大歌舞伎』が好評を博しました。また、歌舞伎座タワーの5階には「歌舞伎座ギャラリー」を開設し、歌舞伎の魅力や国境や世代を超えて発信し、盛況を継続いたしました。新橋演舞場は、「滝沢演舞城」が好評を博し、好稼働いたしました。大阪松竹座「関西ジャニーズJr.春休みスペシャル」、南座「五月花形歌舞伎」が収益に貢献いたしました。また、ル テアトルは、「オセロー」の代替公演となった「三月花形歌舞伎」が健闘いたしました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は7,972百万円(前年同期比69.7%増)、セグメント利益は2,088百万円(前年同期はセグメント損失565百万円)となりました。

(不動産事業)

不動産事業におきましては、不動産賃貸は、厳しい業界市況の中、東劇ビル、新宿松竹会館、大船の松竹ショッピングセンター、新木場倉庫、有楽町センタービル(マリオン)、松竹倶楽部ビルの稼働が順調に推移し、安定収入に貢献しました。稼働間もない歌舞伎座タワーは、さらなる高稼働に努めました。各ビルとも効率的運営、経費削減に努めることにより、計画通りの利益を確保しました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,797百万円(前年同期比8.2%増)、セグメント利益は392百万円(同52.0%減)となりました。

(その他)

その他におきましては、プログラム・キャラクター商品販売は、「機動戦士ガンダムUC episode 6」「宇宙戦艦ヤマト2199 第五章」「ひまわりと子犬の7日間」等が好調でした。また、松竹歌舞伎屋本舗は、好評を博し、収益に貢献しました。貸衣裳事業、清掃事業及び舞台大道具製作事業は堅調な成績をあげております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は1,229百万円(前年同期比1.5%減)、セグメント利益は102百万円(同17.1%増)となりました。

(2) 財政状態

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ1,242百万円減少し、201,784百万円となりました。これは主に有価証券及び投資有価証券が増加したものの、現金及び預金の減少等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ3,283百万円減少し、133,503百万円となりました。これは主に長期借入金（責任財産限定）が増加したものの、1年内返済予定の長期借入金（責任財産限定）の減少等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ2,040百万円増加し、68,280百万円となりました。これは主に利益剰余金及びその他有価証券評価差額金の増加等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当企業グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	300,000,000
計	300,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成25年5月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成25年7月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	139,378,578	139,378,578	東京証券取引所 市場第一部 大阪証券取引所 " 福岡証券取引所 札幌証券取引所	単元株式数 1,000株
計	139,378,578	139,378,578		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成25年3月1日～ 平成25年5月31日	-	139,378,578	-	33,018,656	-	27,935,563

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年2月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年5月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,089,000	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 148,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 136,892,000	136,892	-
単元未満株式	普通株式 1,249,578	-	-
発行済株式総数	139,378,578	-	-
総株主の議決権	-	136,892	-

(注) 「単元未満株式」の中には、当社所有の自己株式403株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年5月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 松竹株式会社	東京都中央区築地 四丁目1番1号	1,089,000	-	1,089,000	0.78
(相互保有株式) 松竹音楽出版株式会社	同上	148,000	-	148,000	0.11
計	-	1,237,000	-	1,237,000	0.89

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新創監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	20,196,343	14,181,767
現金及び預金(責任財産限定対象)	6,491,031	7,565,147
信託預金(責任財産限定対象)	3,349,428	3,968,920
受取手形及び売掛金	6,497,384	5,536,474
有価証券	300,000	3,800,000
商品及び製品	1,466,690	1,428,407
仕掛品	1,158,510	1,629,147
原材料及び貯蔵品	90,144	86,069
その他	5,118,626	4,210,776
貸倒引当金	19,688	14,168
流動資産合計	44,648,471	42,392,542
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	20,639,667	20,416,239
信託建物(責任財産限定対象)(純額)	35,233,414	34,960,511
設備(純額)	13,243,792	12,899,553
土地	23,610,620	23,617,724
信託土地(責任財産限定対象)	18,751,834	18,751,834
その他(純額)	5,689,336	5,660,373
有形固定資産合計	117,168,665	116,306,237
無形固定資産		
のれん	4,523	3,809
その他	2,602,016	2,703,254
無形固定資産合計	2,606,540	2,707,063
投資その他の資産		
投資有価証券	14,450,276	16,460,486
長期前払費用(責任財産限定対象)	14,371,257	14,298,054
その他	9,965,166	9,805,717
貸倒引当金	186,425	186,617
投資その他の資産合計	38,600,274	40,377,640
固定資産合計	158,375,479	159,390,941
繰延資産	2,644	655
資産合計	203,026,596	201,784,139

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,386,860	7,015,115
短期借入金	6,100,000	6,097,500
1年内返済予定の長期借入金	4,734,871	5,193,392
1年内返済予定の長期借入金(責任財産限定)	27,895,000	700,000
未払法人税等	332,289	320,330
賞与引当金	392,600	257,624
その他	8,303,526	8,281,076
流動負債合計	54,145,149	27,865,040
固定負債		
社債	1,100,000	1,100,000
社債(責任財産限定)	10,000,000	10,000,000
長期借入金	31,167,750	33,296,118
長期借入金(責任財産限定)	25,000,000	44,000,000
退職給付引当金	1,593,865	1,606,175
役員退職慰労引当金	664,886	639,787
資産除去債務	1,313,165	1,319,905
その他	11,801,630	13,676,159
固定負債合計	82,641,297	105,638,146
負債合計	136,786,447	133,503,187
純資産の部		
株主資本		
資本金	33,018,656	33,018,656
資本剰余金	30,066,722	30,066,722
利益剰余金	2,330,722	3,064,759
自己株式	1,288,612	1,297,013
株主資本合計	64,127,489	64,853,124
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,073,268	3,396,139
その他の包括利益累計額合計	2,073,268	3,396,139
少数株主持分	39,391	31,688
純資産合計	66,240,149	68,280,952
負債純資産合計	203,026,596	201,784,139

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
売上高	19,038,892	22,159,950
売上原価	11,437,593	12,188,284
売上総利益	7,601,298	9,971,666
販売費及び一般管理費	7,678,614	7,615,915
営業利益又は営業損失()	77,316	2,355,750
営業外収益		
受取利息	14,149	13,303
受取配当金	87	107
負ののれん償却額	1,141	1,141
持分法による投資利益	12,209	5,602
還付消費税等	-	29,331
その他	32,078	38,842
営業外収益合計	59,666	88,327
営業外費用		
支払利息	330,242	458,505
借入手数料	35,392	163,574
その他	145,150	27,386
営業外費用合計	510,785	649,465
経常利益又は経常損失()	528,435	1,794,612
特別利益		
固定資産売却益	53,838	-
特別利益合計	53,838	-
特別損失		
固定資産除却損	2,501	11,435
投資有価証券評価損	105,249	-
特別損失合計	107,750	11,435
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	582,346	1,783,176
法人税、住民税及び事業税	96,419	261,165
法人税等調整額	406,097	381,255
法人税等合計	309,677	642,420
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	272,669	1,140,756
少数株主損失()	4,390	7,703
四半期純利益又は四半期純損失()	268,278	1,148,460

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	272,669	1,140,756
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	622,315	1,321,177
持分法適用会社に対する持分相当額	4,738	1,693
その他の包括利益合計	627,054	1,322,871
四半期包括利益	899,723	2,463,627
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	895,207	2,471,331
少数株主に係る四半期包括利益	4,515	7,703

【会計方針の変更等】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

一部の連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第1四半期連結累計期間の損益への影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

保証債務

従業員の金融機関からの借入に対し、下記のとおり債務の保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年5月31日)
住宅資金也	59,069千円	51,611千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負のれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
減価償却費	1,028,725千円	1,237,302千円
のれんの償却額	714	714
負のれんの償却額	1,141	1,141

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年3月1日至平成24年5月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月30日 定時株主総会	普通株式	414,934	3	平成24年2月29日	平成24年5月31日	利益剰余金

(注)配当金の総額には、連結子会社が所有する自己株式に係る配当金が含まれております。控除後の金額は414,490千円であります。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日至平成25年5月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年5月28日 定時株主総会	普通株式	414,867	3	平成25年2月28日	平成25年5月29日	利益剰余金

(注)配当金の総額には、連結子会社が所有する自己株式に係る配当金が含まれております。控除後の金額は414,423千円であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	映像関連事業 (千円)	演劇事業 (千円)	不動産事業 (千円)	その他 (千円) (注)1	合計 (千円)	調整額 (千円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	11,431,126	4,698,307	1,661,238	1,248,220	19,038,892	-	19,038,892
セグメント間の内部売上高又は振替高	21,083	28,025	421,773	892,242	1,363,124	1,363,124	-
計	11,452,209	4,726,332	2,083,011	2,140,462	20,402,017	1,363,124	19,038,892
セグメント利益又は損失()	236,552	565,521	818,727	87,782	577,541	654,857	77,316

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額 654,857千円には、セグメント間取引消去13,125千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 667,983千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	映像関連事業 (千円)	演劇事業 (千円)	不動産事業 (千円)	その他 (千円) (注)1	合計 (千円)	調整額 (千円) (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (千円) (注)3
売上高							
外部顧客への売上高	11,159,998	7,972,473	1,797,659	1,229,818	22,159,950	-	22,159,950
セグメント間の内部売上高又は振替高	25,288	39,256	418,481	1,066,253	1,549,281	1,549,281	-
計	11,185,287	8,011,730	2,216,140	2,296,072	23,709,231	1,549,281	22,159,950
セグメント利益	443,044	2,088,238	392,698	102,753	3,026,734	670,984	2,355,750

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、舞台衣裳の製作・販売・賃貸、プログラムの製作・販売、キャラクター商品の企画・販売、演劇舞台の大道具・小道具・音響の製作・販売、音楽著作権の利用開発・許諾、不動産の管理・清掃等であります。

2. セグメント利益の調整額 670,984千円には、セグメント間取引消去8,225千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用 679,210千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社の総務部門等管理部門に係る経費であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年3月1日 至平成24年5月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年3月1日 至平成25年5月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	1円95銭	8円36銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (千円)	268,278	1,148,460
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ()(千円)	268,278	1,148,460
普通株式の期中平均株式数(千株)	137,388	137,364

(注) 1. 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年7月9日

松竹株式会社
取締役会 御中

新創監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 柳澤 義一 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 坂下 貴之 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている松竹株式会社の平成25年3月1日から平成26年2月28日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年3月1日から平成25年5月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、松竹株式会社及び連結子会社の平成25年5月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれておりません。